

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 言語コミュニケーション文化研究科 |
| 大項目 | 7 国際交流 (研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 |
| 小項目 | 7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院) |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|--|----------------------------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 2012年度を目標に、海外交流協定校をアジアで一大学、欧米で一大学増やす。 | →学術交流協定校数。 | B | A | A | A | / |
| 2. 外国人客員教員を常時招聘し、共同研究や授業科目担当を実施することで研究活動の国際化・高度化を図る。 | →海外客員教員数、共同研究件数、共同研究成果の公表。 | A | A | A | A | / |
| 3. 国内外の著名研究者を招聘し、学術講演会、セミナーやシンポジウムを年間5回以上開催する。 | →開催プログラム数、参加者数、内容の公表。 | B | A | A | A | / |
| 4. 2012年を目標に、後期課程在籍者、大学院研究員の留学件数、海外での学会発表件数を2割以上増やす。 | →海外における学会発表の件数、留学者数。 | A | A | A | A | / |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 本研究科では従来より中国・北京第二外国語学院、南京大学の2校と学術交流協定を締結しているが、2012年度より新たに湖南大学と同様の協定を結び、アジア圏における協定校が3校となった。なお、中国の杭州師範大学および米国サンフランシスコ州立大学との学術交流については協定締結のための最終段階にある。 |
| 目標2 | 海外より客員教員を招聘して共同研究や授業科目の担当を実施している。2013年度は3名の客員教員を招聘する予定である。北京第二外国語学院との英語セミナー、日本語セミナーは順調に回を重ねている。 |
| 目標3 | 2012年度は本研究科院生と教員で構成する言語コミュニケーション文化学会の講演会において、海外から講師を2名招聘した。また、北京第二外国語学院において先方大学と共同で国際フォーラムを開催した。 |
| 目標4 | 2013年3月に北京第二外国語学院で開催された国際フォーラム(日本語および英語)に8名の学生が参加し、研究成果の発表を行った。 |
| 備考 | |

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【言語コミュニケーション文化研究科】 | | | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 備考 | |
|-----------------------|--------------------|--------------|-----|------|------|------|------|------|------|---------------------|--|
| 指標1 | 国際交流協定締結機関数 | | 機関 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | | |
| 指標2 | 国際交流協定締結国数 | | 国 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 指標3 | 海外からの受け入れ学生数 | 国数 | 国 | — | — | — | — | — | — | 累計数 | |
| | | 外国人留学生 | 正規 | 人 | 9 | 9 | 14 | 24 | 27 | 17 | ・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む |
| | | | 交換 | 人 | 0 | 2 | 3 | 4 | — | — | ・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む |
| | | 外国人留学生在籍学生比率 | 正規 | % | 11.7 | 12.3 | 19.7 | 30.4 | 33.3 | 24.6 | 外国人留学生÷在籍学生数 |
| | | | 交換 | % | 0.0 | 2.7 | 2.8 | 5.1 | 0.0 | — | |
| その他 (セミナー等による受け入れ) | 人 | — | — | — | — | — | — | — | | | |
| 指標4 | 海外への派遣学生数 | 国数 | 国 | — | — | — | — | — | — | 累計数 | |
| | | 人数 | 長期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | ・累計数 ・1学期以上を「長期」 |
| | | | 短期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | ・累計数 ・1学期未満を「短期」 |
| | | 在籍学生比率 | 長期 | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | 海外へ派遣した学生数÷在籍学生数 |
| 短期 | % | | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | | | |
| 指標5 | 海外からの受け入れ教員数 | 長期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| | | 短期 | 人 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | ・累計数 ・1年間未満を「短期」 | |
| 指標6 | 海外への派遣教員数 | 長期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| | | 短期 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | ・累計数 ・1年間未満を「短期」 | |
| 指標7 | 国連ボランティア(UNV)の参加者数 | | 人 | — | — | 0 | 0 | 0 | — | ・累計数 ・春・秋の合計 | |

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)